

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立鹿島高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新設鹿島高等学校として1期生を送り出し、新しい学校の運営のあり方や方針が定まりつつある。次年度は、さらにそれを発展させることで地域に根ざした一つの学校であるという意識を高め、安定した学校運営につなげた。 ・不登校傾向の生徒への対応、いじめ対応、事件事故の未然防止等に一層力を入れ、安心で安全な学校づくりを推進する。 ・卒業後の進路実現のため、学力の保障とキャリア教育を計画的に推進する。 ・「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」や「学校評議員制度」等の整理を通して、コミュニティスクール導入の基盤づくりを推進する。 ・校務の見直しを普段に行い、教員の働き方改革をさらに推進する。
---------------	---

2 学校教育目標	高い志をもち、主体的に道を切り拓いていく心豊かで逞しい人が育つ学校づくり
----------	--------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 自己肯定感や自己有用感を高め、豊かな人間性と高い志を育む教育活動の推進 ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善 ③ 主体的に希望進路の実現を目指すキャリア教育の推進 ④ 「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」の継続・発展による、コミュニティスクール導入の基盤づくり ⑤ 教職員の働き方改革の推進 ⑥ 校舎制による円滑な学校運営の推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組		評価	意見や提言	
			達成度(評価)	実施結果			
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善及び生徒の学習に対する主体的取組の確立	○授業の進度や内容が適当であると思う生徒を80%以上にする。 ○授業をおおして学力が向上したと思う生徒を80%以上、意欲的に学ぶことができていると思う生徒を90%以上にする。	・授業を公開し、授業研究会を実施する。(各教科2名以上) ・授業アンケートを実施し、生徒の学習意識を確認する。 ・ICTを活用して家庭学習時間を把握し、タイムリーな指導を行う。	A	・公開授業は各教科2件ずつ、計18件の計画のうち、17件が実施できた。約110名が参加した。また、近隣の中学校にも案内し、2校から延べ10名の参加があった。 ・ICTを利用して学習時間調査を3回(6月、9月、2月)実施し、高校総体、学校祭、進級に向けて等、節目節目での気持ちの切り替えに役立った。 ・授業の進度や内容が適当であると思う生徒は97.9%、授業をとおりて学力が向上したと思う生徒は95.4%、意欲的に学ぶことができていると思う生徒は92.8%であった。	A	オンライン授業に熱心に取り組まれている。特に、1名でも欠席生徒がある場合に日常的に授業ライブ配信するという取り組みは、欠席した場合の安心感につながるし、不登校の生徒にとっても学力の保障という点で大変よい取り組みだと思う。さらに、学力の向上に取り組んで欲しい。
	◎社会に貢献する志を持つ生徒の育成 ○生徒の進路希望の実現	○自分の進路実現をおおして社会に貢献したいと考える生徒を90%以上にする。 ○国公立大学志願者の合格率を75%以上にする。 ○就職希望者の就職率を100%にする。	・進路講演会、出前講座、進路ガイダンスを各1回以上実施する。 ・HRや総合的な探究の時間において生徒のキャリアデザイン力の育成を図る。 ・進路検討会(年2回以上)や学年会等で現状や課題を把握・共有し、きめ細やかな個人面談を行う。	B	・進路講演会は6月(3年生)、12月(1年生)、3月(2年生)に予定通り実施した。 ・進路ガイダンスは7月に、出前講座は10月に実施した。 ・進路検討会は、3年生は4回(4月、6月、12月、1月)、2年生は2回(5月、12月)、1年生も2回(5月、11月)実施し、現状や課題の把握・共有を図った。 ・進路実現をおおして社会に貢献したいと考える生徒は94.6%であった。 ・就職希望者の就職率は100%であった。 ・国公立大学志願者85名のうち62名が国公立大学に合格(72.9%)した。	B	難関大学や首都圏の大学への進学状況等は地域の関心の高いところでもあり、そういった大学についての情報が欲しい。また、そうした大学に限らず、生徒の進路志向に配慮する取り組みをお願いしたい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心等、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権感覚を身につけるための研修機会等へ参加した生徒、職員を95%以上にする。 ○自己有用感、自己肯定感が高まったと思う生徒を80%以上にする。	・人権・同和教育に関するホームルームと講演会をそれぞれ1回以上実施する。 ・全校集会または学年集会でSNSや情報モラルに関する指導を1回以上行う。 ・人の役にたつ喜びを体感することを目的として、ボランティア(春と秋の花ボラ、2月の祐徳ロードレース等)への参加を推奨する。	B	・人権・同和教育に関するホームルームを6月に、講演会を10月に一部オンラインで実施し、生徒と職員のほぼ全員が出席またはオンラインで視聴した。 ・自己有用感、自己肯定感が高まったと思う生徒は79.2%であった。 ・全校集会でSNSで安易に個人情報を発信しないこと、またいじめにつながるような人を傷付ける言動をしない旨の指導を繰り返した。 ・ボランティア(春と秋の花ボラ、2月の祐徳ロードレース等)への参加推奨についてはコロナ禍のため実施できなかった。	B	自己有用感や自己肯定感についての成果指標は、昨年度70%だったところを今年度は80%に引き上げている。結果の79.2%という数字は目標に及ばなかったとはいえ立派なものである。在校生は毎年入れ替わるので、年度初めに比べて年度末にどのくらい向上したかという指標もよいのではないかと。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止基本方針にしたがって、組織的対応ができていると回答する教員を95%以上にする。 ○いじめは許されないという考えに基づき行動できたと答える生徒を95%以上にする。	・5年程度のアナログ調査を学習用パソコンを利用して行う。 ・気になる生徒への声かけを行うとともに、学年会等で情報共有する。 ・いじめの対応について、5月までに職員に通知する。 ・対策委員会等により、組織としての対応を迅速に行う。 ・1学期にSOSの出し方に関する研修会を実施する。	B	・いじめの対応について、5月までに全職員に通知した。 ・アンケート調査は、1学期に経て3回、2学期からは学習用PCを利用して3回、合計6回実施した。 ・アンケート調査や本人からの相談により、対策委員会において、いじめも軽微な段階で19件のいじめを認知した。 ・1学期にSOSの出し方に関する研修会をオンラインで実施した。 ・いじめ防止基本方針にしたがって、組織的対応ができていると回答した職員は92.4%であった。	A	いじめの認知件数が意外に多くて驚いたが、基本方針に従って一般にはいじめとは呼べないような軽微な段階で学校が対応していることと表れていることがわかった。いじめの定義に照らせば人が集まる場所がいじめが起らないことはあり得ないので、今後も取り組みを進めて欲しい。組織的対応についての職員の評価が低いのは過半数のクラスでいじめが発生していないため、組織的な取り組みが見えないことの裏返しであり、誤解を招かないためにも次年度は成果指標をもう工夫してもよいのではないかと。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○健康に食事は大切であるとする生徒を95%以上にする。 ○朝食の喫食率を95%以上にする。	・望ましい食習慣や食に関する情報を保健だより等で3回以上提供する。 ・食習慣に関するアンケートを2回実施し、結果をもとに必要な指導を実施する。	B	・望ましい食習慣や食に関する情報提供を保健だよりで3回(5月、7月、12月)行った。 ・食習慣に関するアンケートを2回(9月、12月)実施した。健康に食事は大切であるとする生徒は98.9%及び98.1%であり、食事の大切さはほとんどの生徒が認識しているが、朝食の喫食率は94.1%及び93.3%であり、今年度の取り組みによる有意な変化は見られなかった。	A	食事の重要性に関しての意識の醸成は十分に目標を達成している。しかしながら実際に朝食を食べるか否かについては、学校外のことであり家庭の理解、協力が不可欠であり、成果指標の設定の妥当性に疑問を感じる。家庭に協力を得るのであればPTAの協力を得る等多面的な取り組みを考えてはどうかであろうか。
	●安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)件にする。	・年度当初に自転車点検及び自転車の乗り方に関する基本的な指導を実施する。 ・1学期に交通安全に関する講話を実施し、危険を回避する具体的方法を身に付けさせる。 ・交通安全について各学期に1回ずつ生徒会による呼びかけを行う。	B	・生徒の交通事故は加害0件、被害1件であった。 ・年度当初に全クラス自転車点検を行い、自転車の乗り方に関する指導を実施した。 ・鹿島警察署の協力を得て1学期に交通安全に関する講話をオンラインで実施し、危険を回避する方法を身に付けさせる指導を行った。 ・交通安全について、1学期には生徒会による呼びかけを1回行ったが、2学期には生徒指導部の呼びかけにとどまった。	A	学校の立地条件を考えると、生徒の被害事故が1件にとどまっていることは非常に素晴らしいことである。「安全に関する資質・能力の育成」の観点から考えると、成果指標については被害事故を除いて加害事故の件数のみとしたり、犯罪被害の観点を加える等を検討してはどうかであろうか。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年休取得7日以上職員を90%以上にする。	・各校務分掌において1つ以上の業務の効率化や見直しを行う。 ・「上限時間」を職員の目に触れる場所に掲示する。 ・定時退勤推進日を設定し、定時退勤しやすい環境作りを行う。 ・時間外在校時間が90h/月を超えた職員には「上限時間」に関する説明及び時間外在校時間削減のための面接を行う。 ・年休の取得をしやすく環境作りを行う。	B	・すべての校務分掌で、業務の効率化や見直しを実施した。 ・4月に「上限時間」の概要を示した案内文を出動簿欄に掲示した。また、時間外在校時間が90h/月を超えた職員全員に、産業医との面接を実施した。 ・定時退勤推進日は月、水曜日の都合のよい日とし現状に配慮した。 ・年休取得7日以上職員は、85.2%で(昨年度41.9%)であり、昨年度から大幅に改善はしたものの目標には及ばなかった。なお、1人当たりの年休の平均取得日数は11.7日(昨年度8.7日)、「上限時間」を遵守できていると答えた職員は73.1%であった。	B	先生方が、献身的に大変丁寧な指導をされていることはよく聞こえてくる。仕事の全体量があり減らない中で、よく取り組まれていると思う。成果指標については確かに達成できているが、内容をみるとほぼ達成できていると考えてよいと思われる。先生方が十分に休養・充電されることは、よりよい授業のためには大切だと思うので、目的に照らして必要最低限の仕事の削減や教員が担う必要のない仕事の見直し等をすすめて欲しい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組		評価	意見や提言	
			達成度(評価)	実施結果			
○コミュニティ・スクールを活用した魅力と活力ある学校づくり	○地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトの推進 ○コミュニティスクール導入の基盤整備	○主体的に探究活動に取り組む生徒90%以上、課題解決のための提案をした生徒を80%以上にする。 ○小学校及び中学校との連携事業を1つ以上行う。 ○12月までに学校運営協議会のメンバーを決定する。	・1年時は与えられた課題について、2年時は自ら考えた課題について解決策を考えさせる。 ・成果発表会を設定し、プレゼンテーションに取り組みさせる。 ・小、中学校との連携事業として、公開研究授業やスポーツ・文化交流等を行う。 ・地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト協議会と学校評議員会の合同開催をおおしてコミュニティ・スクール導入のための組織体制づくりを行う。 ・コミュニティ・スクール導入校について先遣校視察を行う。	A	・地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトについては、主体的に探究活動に取り組む生徒91.0%、課題解決のための提案をした生徒87.1%であった。 ・連携事業では、本校の公開研究授業に延べ10名の中学校職員が参観があった。また、柔道部、バレーボール部が中学校との合同練習を、美術部が公民館主催の絵画教室において小学生の指導を行った。 ・地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト協議会と学校評議員会を合同で3回(7月、12月、2月)開催し、学校運営協議会への理解を進めるとともにメンバーの決定まではいかなかったが、構想を12月末にまとめることができた。 ・先遣校視察については、山口県の3校へ視察に行く予定であったが、コロナ禍における感染拡大の影響によりオンラインに切り替えて実施した。	A	地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトについては、確かに成果指標を達成しているが成果指標になっていない職員の評価は必ずしも高くはない。生徒の視点では十分であった大人の視点ではさほどでもないということなのかもしれないので、成果指標には職員の評価も盛り込んだ方が客観性が増すのではないかと。また、取り組みによるその後の向上のためには、やや高めな目標設定を考えてもよいのではないかと。 学校の活性化が地域の活性化につながるよう応援したい。また、学校の取り組みを外部に「見える化」することは大切であり、学校からの依頼があれば協力したい。
○校舎制による円滑な学校運営	○一つの学校であるという意識の深化	○校舎の枠にとらわれずに業務を行っているという意識の職員を75%以上にする。 ○校舎を超えた活動に意義を感じたと答える生徒を90%以上にする。	・各種会議を合同で実施する。 ・校時や行事は生徒、職員の移動に無理のない計画とする。 ・内線電話、ICT活用等の環境の見直しや整備を推進する。 ・上期、下期にそれぞれ1回以上、校舎の枠を超えた業務遂行についての職員アンケートを実施する。	B	・各種会議の合同実施、移動に配慮した計画とその実施等は十分に行えた。 ・面職員室間の物理的な壁を縮小するために、内線電話の増設(大手門学舎)、電子黒板を常時接続する試み等を行った。 ・校舎の枠にとらわれずに業務を行っていると答えた職員は76.9%で、指標を達成した。 ・校舎を超えた活動に意義を感じると答えた生徒は80.1%であった。コロナ対応のため学校祭等の行事を縮小したり、オンライン開催としたことが影響した可能性が考えられる。	B	「校舎を超えた活動に意義を感じたと答える生徒を90%以上にする」という目標については、「意義」についての感じ方は人それぞれであり、成果指標としては高すぎるのではないかと。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・「授業の工夫・改善」については、すべて成果指標を達成した。しかしながら、学力の向上につながったという実感は今一歩である。次年度は、「生徒の学習に対する主体的取組の確立」についての取り組みを深化させ、卒業後の進路実現につなげていきたい。 ・「心の教育」について、自己有用感、自己肯定感を高めることについては概ね達成できた。自分自身に関してこれらを実感することは、生き方への自信や他人に対する優しさ等につながる大きな要素であるため、なお一層高める方策を検討していきたい。また、「いじめ」については生徒の意識も高く、早期発見や早期対応については概ね適切に行われており、軽微な段階でのいじめを多く認知することができた。今後も早期発見、早期対応を継続していく。 ・「業務効率化と時間外勤務時間の削減」については、前年より大幅に改善したものの成果指標を達成できなかった。これまでの業務を3つの観点(①基本的には学校以外が担うべき業務、②学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務、③教師の業務だが、負担軽減が可能な業務)に分けてさらなる業務改善を進めていく必要がある。 ・「一つの学校であるという意識の深化」は、2つの学舎が近接するという本校の特徴を強みに変えたり、業務の効率化を進めるために重要であり、さらに推進していきたい。 ・次年度、本校はコミュニティ・スクール推進校となる。今年度の成果をもとに、本校の状況にフィットしたコミュニティ・スクールの形を模索し、地域との連携を進めることで魅力と活力ある学校づくりを進めていきたい。</p>
----------------	---